

## ホリデーイベント「アイヌの草らっぱを吹いてみよう」

Holiday Event: "Try Playing the Ainu Grass Trumpet"

### 荒川のぞみ (ARAKAWA Nozomi)

国立アイヌ民族博物館研究学芸部教育普及室エドゥケーター (Educator, National Ainu Museum)

### 木幡弘文 (KIBATA Hirofumi)

民族共生象徴空間運営本部伝承課主任 (Cultural Programs, UPOPOY National Ainu Museum & Park)

キーワード：アイヌ文化、教育普及イベント、楽器、ヨブスマソウ

Keywords: Ainu culture, educational outreach events, music instruments, *Cacalia hastata*

## 1. イベントの概要

### 1.1 目的と意義

本イベントは、アイヌの草らっぱ<sup>1</sup> (ヨブスマソウ) を題材に、ヨブスマソウの植生やアイヌ文化における利用方法を学び、草らっぱの演奏体験をするものである。本イベントを実施した民族共生象徴空間 (愛称ウポポイ) は、国立アイヌ民族博物館 (以下、「当館」)、国立民族共生公園 (以下、「公園」と慰霊施設の3つから成り立っている。当館はアイヌの伝統的な楽器<sup>2</sup>として竹製および金属製の口琴やトンコリを所蔵しているが、現在ヨブスマソウの草らっぱは収蔵していない。公園でも口琴やトンコリの演奏を聴くことができるが、ヨブスマソウの草らっぱの体験プログラムはこれまで実施されていない。本イベントは初めてアイヌの草らっぱに触れる人を対象に、聞いて学ぶ活動と自ら体を動かして学ぶ活動の2つを通じ、アイヌ文化に親しみを持ち関心を高めることを目的とした。また、幅広い年齢層がイベントに参加できるほか、来館者が楽しみながらアイヌの音文化に触れることで学びを持ち帰ることのできるイベントとなることを目指した。

る点が特徴的である (佐藤・小林・久保 1995: 222-223)。



写真1 ヨブスマソウ

### 1.2 「アイヌの草らっぱ」について

#### 1.2.1 ヨブスマソウについて

ヨブスマソウ (学名: *Cacalia hastata*) は、キク科に属する多年草であり、その分布域は北海道、本州の北関東以北、南千島およびサハリンに及ぶ。本種は、茎の高さが2 mを超えることがあり、茎には節が存在せず、中空構造を有する。葉は幅広の三角形を呈し、長さ25～35 cm、幅30～40 cmと大型であ

pehkutu petkuttar

## 1.2.2 アイヌ文化における

### ヨブスマソウの楽器利用

#### 1.2.2.1 アイヌ語名について

ヨブスマソウのアイヌ語名称には地域差があるが、大きく「水」に着目した名称群と「楽器」に着目した名称群の2系統に大別される。

前者に該当する名称としては、wakkakutu (様似、足寄)、wakkakukutu (美幌、屈斜路)、wakkakuttar (沙流、天塩、上川)、wakkakukuttar (名寄)、pekutu (長万部、礼文華)、pekkutu (白糠)、pexkutu (白浦、真岡)、petkuttar (有珠)、および worunkutu (藻汐草より) (アイヌ語で wakka、pe および wor は水、ku は飲む、kutu および kuttar は筒、pet および pex は川、un は～に入る、の意) が挙げられる。

後者の例としては、chirektekuttar (幌別) および rekkuttar (穂別、千歳) (chi は我々が、rekte は鳴らす、rek は鳴る、の意) などが確認されている (知里 1976:12-13)。

本イベントでは、ヨブスマソウの名称として「楽器」に着目した名前であるチレクテクッタラを採用した。

#### 1.2.2.2 ヨブスマソウに関する記録

歴史資料や近年の実践において記録されたヨブスマソウ (と考えられるものを含む) に関する記述のうち、音を出す道具として言及しているものには以下のようなものが挙げられる。

##### ① 1789年 菅江真澄『ゑみしのさえき』

ラッパのような筒状のものを吹く子ども2人の姿が描かれている。文章からは法螺貝のような音がしたこと、「山ふゝき」の茎の根本を切ったものを吹いて鳴らしていたことが記されている。しかし、「山ふゝき」がヨブスマソウのことを指すのかに関しては定かではない。

##### ② 1859年 松浦武四郎『蝦夷漫画』

ヨブスマソウに関する記述は、「楽器の式」のうち、植物図および人物図にある。植物図における「チレカレツ」の葉の特徴はヨブスマソウの特徴と一致する。

##### ③ 1925年 田邊尚雄「樺太アイヌの音楽と舞踊」

『國學院雑誌』

20ページに「楽器はトンコリ、ムックナ、ベックツレットの三種」という記述がある。23ページには「ベックツ、レット」という名前で詳

しく紹介されている。「ホルネットのやうな清んだ美しい強い音がする。それで主として階音のみを以て奏する。」と記述され、男性が演奏するものであることも言及されている。なお、田邊が書いた1926年「アイヌ人の音楽と舞踊」『日本音楽の研究』と1927年「樺太土人の音楽」『島国の唄と踊』にも同様の記述が認められる。

##### ④ 1951年 太田太郎『アイヌの気鳴楽器』

田邊尚雄と同様の記述が認められる。

##### ⑤ 1964年 NHK『北方民族の楽器』

ヨブスマソウについての映像が認められ、ヨブスマソウを鳴らす少年の映像と音声が確認できる。

##### ⑥ 1976年 更科源蔵・更科光

『コタン生物記 I 樹木・雑草篇』

ヨブスマソウに関する記述と写真が見られる。吹き口の加工方法や演奏方法に地域差が存在することを示しており、参考となる写真も添付されている。

##### ⑦ 1976年 知里真志保

『分類アイヌ語辞典 植物編・動物編』

更科源蔵と同様の記述が認められるほか、ヨブスマソウのアイヌ語名称についても記述されている。

##### ⑧ 1978年 民族文化映像研究所

『沙流川アイヌ・子どもの遊び』

ヨブスマソウについての映像が認められ、実際に鳴らす子どもたちの映像と音声が確認できる。

##### ⑨ 1983年 更科源蔵『アイヌの童戯』

先述した菅江真澄の『ゑみしのさえき』に関する解説があり、更科は「山ふゝき」はヨブスマソウであると述べている。

##### ⑩ 1995年 福岡イト子『アイヌ植物誌』

ヨブスマソウが「ラッパ草」とも呼ばれ、子どもの遊び道具として親しまれていたことが述べられている。

##### ⑪ 2012年 千葉伸彦

『The reed pipe of the Ainu.』

アイヌの草笛 (草ラッパ) チレクテクッタラ』千葉が吸気を用いてヨブスマソウを鳴らした映像が残されている。

##### ⑫ 2015年 北原次郎太

『月刊シロロ7月号:《シンリウウレシバ (祖先の暮らし)》第5回

北方の楽器たち (2)』

北原が実際に鳴らした際の感想や、柘谷による吸気を用いた場合と呼気を用いた場合の音高の差、他地域の類似楽器にも触れている。

⑬ 2023年 千葉伸彦

『雨の日にヨブスマソウを探す Looking for the 'Yobusuma-sou' plant on a rainy day.』

および『ペヘクトウ pehkutu チレクテクッタラ cirektekuttar アイヌの草らっぱ【実験】Ainu Grass Trumpets【Experiment】』

実際にヨブスマソウを採取し加工、鳴らすまで行う映像が確認できる。また、長さや太さの異なる14本のヨブスマソウを吹き比べ、それぞれの基音と鳴った音程に言及している。

以上のように、チレクテクッタラがヨブスマソウの茎を用いた気鳴楽器であることが分かる。しかし、どのような場合にどういった目的で鳴らすのか、地域性があるのかについては分かっていない。

## 2. 実践報告

### 2.1 準備

#### 2.1.1 ヨブスマソウの採取

ヨブスマソウは民族共生象徴空間内にも生育しているが、茎の太さや長さが十分ではなかったため、民族共生象徴空間外で採取することとした。土地の管理者に事前に許可を取り、採取を行った。採取後、その場で葉を取り除いた。



写真2 採取の様子

#### 2.1.2 ヨブスマソウの低酸素濃度処理

本イベントで使用したヨブスマソウは、防除措置のため殺虫処理を実施した。イベント内で口をつけて演奏をすることを考慮し、薬剤を使用しない方法である低酸素濃度処理（脱酸素剤）を選択した<sup>3</sup>。エスカルフイルム<sup>4</sup>に脱酸素剤<sup>5</sup>を封入し、熱圧着にて密封した後、温度20度を保てる場所で14日間安置した。



写真3 低酸素濃度処理の様子

### 2.1.3 ヨブスマソウの加工

低酸素濃度処理が終了した後、茎の乾拭きと吹き口の加工を行った。本イベントでは北海道の演奏方法で行うため、カッターを用いて茎を斜めに削いだ。来館者の安全のためカッターを用いての作業は職員が行い、2mを超えるヨブスマソウは適当な長さにカットし短くした。

### 2.1.4 広報

広報は当館 HP、Facebook で行ったほか、当日は館内に看板およびサイネージを設置した。



写真4 当館 HP



写真5 Facebook



写真6 看板



写真7 サイネージ

## 2.2 実施

プログラムの内容は以下のとおりである。

【タイトル】アイヌの草らっぱを吹いてみよう

【開催日】2025年8月3日

【開催場所】当館交流室




【所要時間】40分

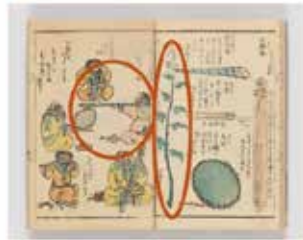
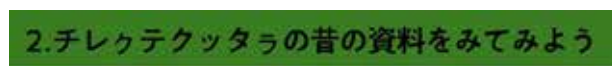
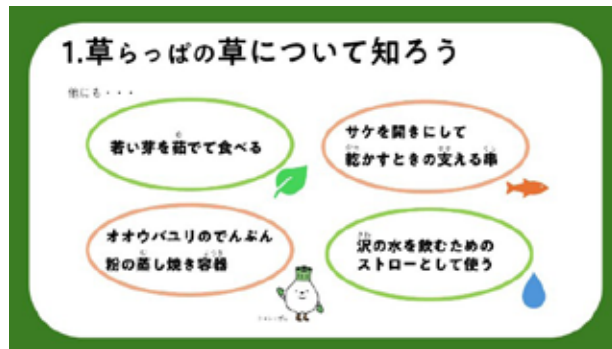
【参加人数】25人

イベントの構成は導入、展開①（聞いて学ぶ活動）、展開②（鳴らして学ぶ活動）、まとめとした。展開①はヨブスマソウの植生やアイヌ語表記、水を使った遊び方や植物の利用方法、歴史資料を荒川・木幡の対話形式でスライドを用いて解説し、②は参加者が実際にヨブスマソウを鳴らす活動とした。ヨブスマソウおよびスライド資料は持ち帰り可能とした。

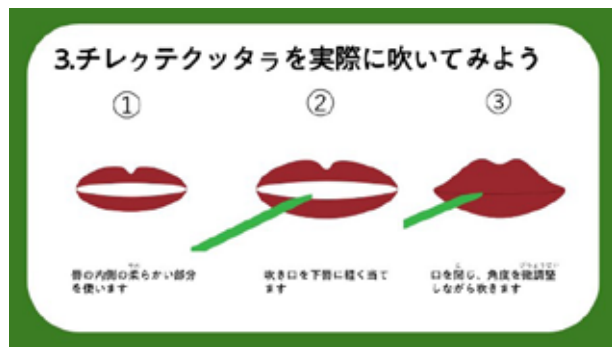
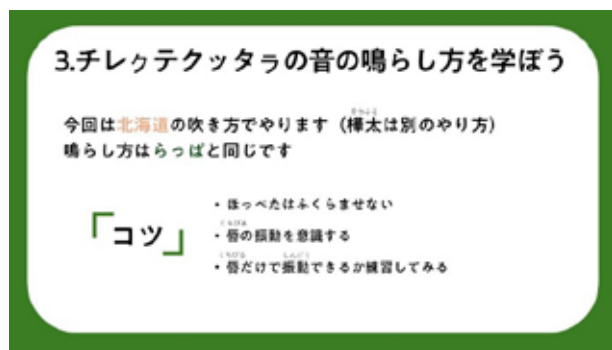
表1 イベントの内容スライド及びねらい

構成	使用したスライド	ねらい
導入		イベントの見通しを持つ

	<div data-bbox="424 241 692 580"> <h3>今日やること</h3> <p>チレツテクッタについて知り、楽器を鳴らしてみよう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 草らっぱの草について知ろう</li> <li>2. チレツテクッタの音の資料をみてみよう</li> <li>3. チレツテクッタの音の鳴らし方を学ぼう</li> <li>4. チレツテクッタを実際に鳴らしてみよう</li> </ol> <p>らっぱは持ち帰ることができませんよ</p> </div> <div data-bbox="424 607 1018 938"> <h3>おやくそく</h3>  <p>写真撮影、録音、録画はしない (演奏体験時のみ可) 草で人をたたかない 草をもって展示室に行かない</p> </div>							
<p>展開</p>	<p>草らっぱの草について知ろう</p> <div data-bbox="424 999 1024 1319"> <h3>1.草らっぱの草について知ろう</h3>  <h4>ヨブスマソウ</h4> <p>キク科コウモリソウ属 北海道、本州（北関東以北）、南千島、サハリンに生えている。 茎の高さが2m以上になる。 茎の中は空洞になっている。 葉は幅の広い三角状で大きい。 8月ごろに花が咲く。</p> </div> <div data-bbox="424 1357 1024 1688"> <h3>1.草らっぱの草について知ろう</h3> <table border="1"> <tr> <th>水</th> <th>楽器</th> </tr> <tr> <td> <p>ワッカクトウ (洞爺、支庁) ワッカクツツワ (洞爺、支庁) ワッカクツツラ (洞爺、支庁、上川) ワッカクツツラ (洞爺)</p> <p>ベクトウ (洞爺、支庁) ベクトウ (洞爺) ベクトウ (洞爺、支庁) ベクトウ (洞爺) ウエルンクトウ (洞爺、支庁)</p> </td> <td> <p>レツクツツラ (洞爺、支庁) チレツテクッタ (洞爺)</p> <p>チ、レツツ、クツツ、 儀々が 鳴らす 音</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>ワッカ 水 クツツワ 壺 ク 鼓 ベツ 川 ウオル 水</p> </td> <td></td> </tr> </table> </div> <div data-bbox="424 1727 1024 2058"> <h3>1.草らっぱの草について知ろう</h3>  </div>	水	楽器	<p>ワッカクトウ (洞爺、支庁) ワッカクツツワ (洞爺、支庁) ワッカクツツラ (洞爺、支庁、上川) ワッカクツツラ (洞爺)</p> <p>ベクトウ (洞爺、支庁) ベクトウ (洞爺) ベクトウ (洞爺、支庁) ベクトウ (洞爺) ウエルンクトウ (洞爺、支庁)</p>	<p>レツクツツラ (洞爺、支庁) チレツテクッタ (洞爺)</p> <p>チ、レツツ、クツツ、 儀々が 鳴らす 音</p>	<p>ワッカ 水 クツツワ 壺 ク 鼓 ベツ 川 ウオル 水</p>		<p>ヨブスマソウの植生を知る</p> <p>ヨブスマソウのアイヌ語表記を知る</p> <p>ヨブスマソウを使った水遊びを知る</p>
水	楽器							
<p>ワッカクトウ (洞爺、支庁) ワッカクツツワ (洞爺、支庁) ワッカクツツラ (洞爺、支庁、上川) ワッカクツツラ (洞爺)</p> <p>ベクトウ (洞爺、支庁) ベクトウ (洞爺) ベクトウ (洞爺、支庁) ベクトウ (洞爺) ウエルンクトウ (洞爺、支庁)</p>	<p>レツクツツラ (洞爺、支庁) チレツテクッタ (洞爺)</p> <p>チ、レツツ、クツツ、 儀々が 鳴らす 音</p>							
<p>ワッカ 水 クツツワ 壺 ク 鼓 ベツ 川 ウオル 水</p>								



札幌市立博物館(1859)蝦夷地図(札幌市立博物館蔵)



ヨブスマソウの様々な  
利用方法について知る

蝦夷漫画に描かれている  
ヨブスマソウの記述を探  
す

ヨブスマソウの  
演奏方法の地域差を  
確認する

ヨブスマソウを  
実際に演奏する

チレクテクッタラの  
昔の資料をみてみよう

チレクテクッタラの  
音の鳴らし方を学ぼう

チレクテクッタラを  
実際に吹いてみよう

まとめ

## 今日やったこと

チレツェクッタゥについて知り、楽器を鳴らしてみよう

- 1 草らっぱの草について知った
- 2 チレツェクッタゥの音の資料をみた
- 3 チレツェクッタゥの音の鳴らし方を学んだ
- 4 チレツェクッタゥを実際に鳴らしてみた

## イヤイライケレ

らっぱを持って帰ってもいいよ!

参考文献  
 佐藤孝夫・小竹隆正・久保秀典(1995)北海道とアイヌ音楽  
 松浦純彦(1999)蝦夷楽楽  
 渡辺イ子(1999)アイヌ植物誌 草葉編  
 知蔵真志(1976)知蔵真志存集 巻別巻1、平凡社  
 春アイス語彙記については後継レギュレーションに  
 合わせています。




イベントで学んだことを確認する



写真8 当日の様子



写真9 当日の様子

### 2.3 反響

イベント実施後、アンケートを17枚（参加者数は25人）回収した。

表2 アンケート結果

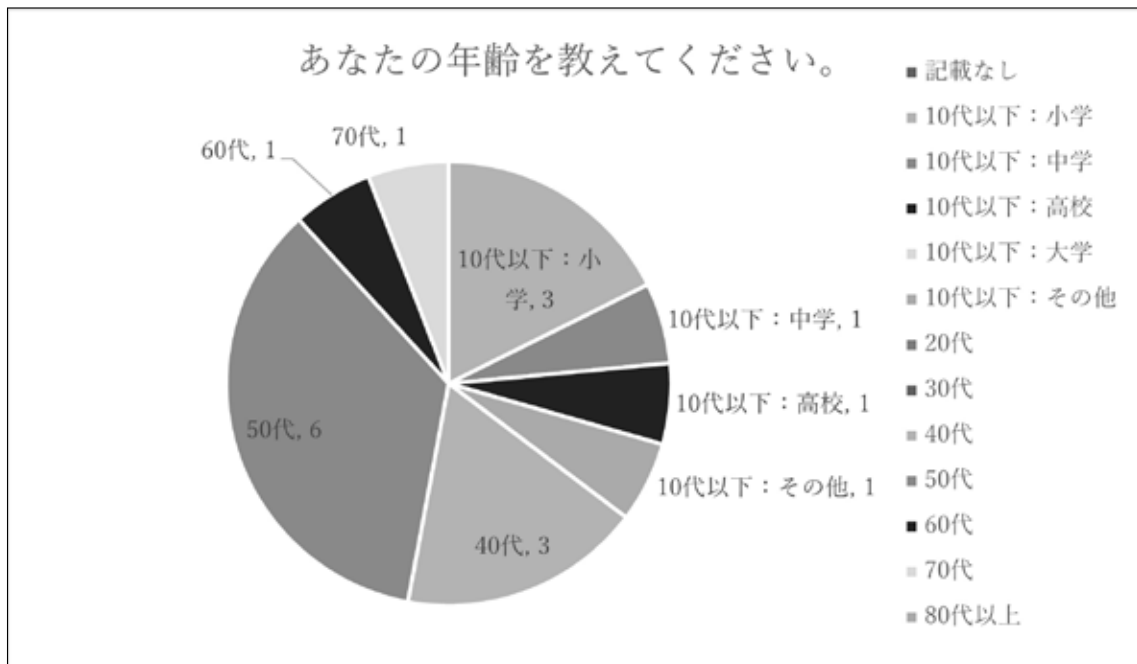


表3 アンケート結果

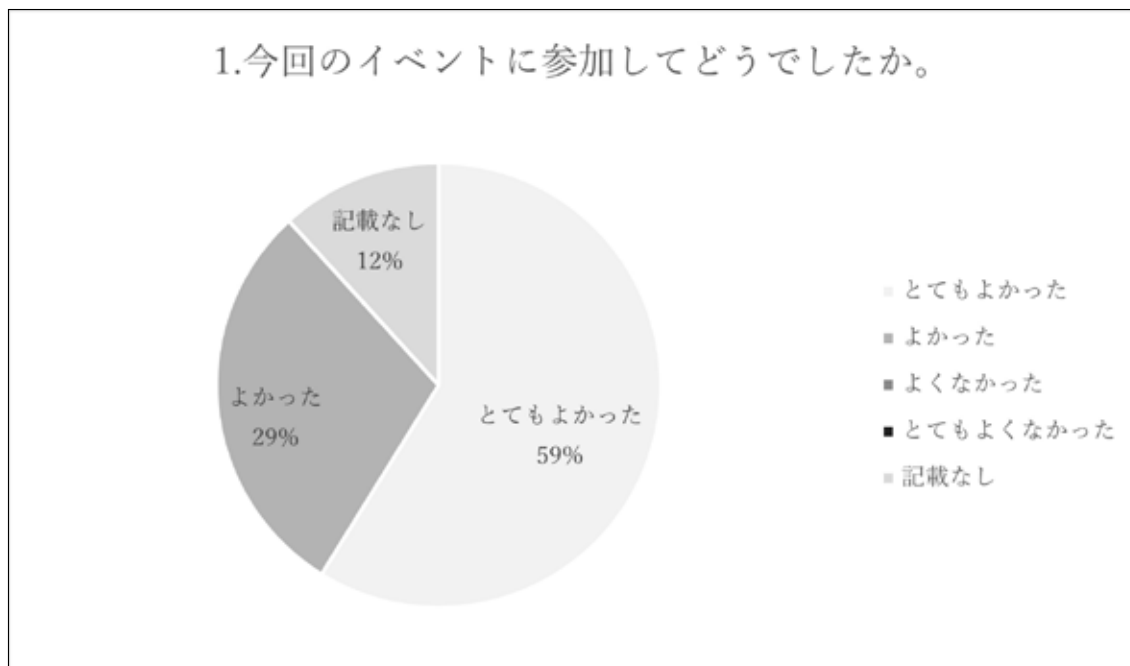


表4 アンケート結果

1. のように答えられた理由を教えてください。(自由記述)

- 体験できる点。草の他の用途についても知ることができた。
- 体験と知識が得られた
- 楽しかった
- 良い経験になりました。
- 上手にたのしくふけたから。
- チレクテクッタヲをゆっくりわかりやすく教えてくれたのでよかったです。体験もできてよかったです。
- 説明がわかりやすく、新しい知識を得た
- うまくできたから
- 体験型で楽しめた
- 体験したことのない経験ができたため。
- アイヌ文化の一つにふれられた

表5 アンケート結果

今回のイベントで最も印象に残ったことを教えてください。(自由記述)

- 実演できた事
- チレクテクッタヲがどういうものか、写真や動画でくわしく説明されていて特徴がよくわかった。解説者がゆっくり一語一語話してくれてとてもわかりやすかった。2人での対話しての説明も良かった。何よりも皆で楽しく一体感が生まれたのがいいと思う。
- 楽しかったです。
- 実際に音を鳴らすことができてよかったです。
- お子さんが楽しく取り組んでいた
- しっかりふけてはくしゅされた
- 自分は出来そうになかった。子供は上手だった
- 草っぱらの吹き音
- 鳴らすのが難しかったです。初めて草らっぱのことを知り、勉強になった。

参加者の年代は、10代以下と50代の参加者が最も多く、ともに全体の約35%であった。夏休み中の開催であり、HP、SNSでの事前告知や当日の館内広報を行ったため、幅広い年代の参加につながったと思われる。

プログラムの満足度に関する項目では、未記入を除く全員が「とてもよかった」または「よかった」と回答した。その理由について自由記述回答では「体験したことのない経験ができた」「上手にたのしくふけた」「実際に音を鳴らすことができよかった」といったコメントが見られた。チレクテクッタラに触れ、演奏するという体験型のイベントを参加者に提供できたと考えられる。

また、「ゆっくりわかりやすく教えてくれたのでよかった」「写真や動画でくわしく説明されていて特徴がよくわかった」「初めて草らっぱのことを知り、勉強になった」というコメントが見られた。木幡と荒川の対話形式の説明を行ったことで、わかりやすく楽しめる工夫と配慮ができ、満足度につながったと考えられる。

このように、聞いて学ぶ活動と自ら体を動かして学ぶ活動の両方の活動を取り入れたことで、知識と体験の両面からアイヌの多様な音文化に触れられるイベントとなったのではないかと考えられる。

### 3. 今後の展望

アイヌ民族が伝統的に用いてきた楽器には、当館が所蔵する竹製および金属製の口琴やトンコリのほか、本稿で取り扱ったヨブスマソウ、草の葉を用いた口琴など多様な種類が存在する。その中で、特に草らっぱに関しては現存する実物の楽器は極めて少ない現状がある。資料の収集はもちろんのこと、楽器を復元する枠組みの構築は、意義のある重要な取り組みであると考えられる。さらに、伝統的な楽器を再現し普及していくことは、単に収蔵資料を充実させるだけでなく、サウンドスケープ<sup>6</sup>も含めて再現・回復し得る可能性があると考えられる。当館としても、単なる視覚情報に依拠した展示や普及のみならず、どのように音を出し、どのような音が出るのかという聴覚へのアプローチや、どのようなときに、何のために、どのような環境で音を出すのかというサウンドスケープへの視点も今後必要になってくるだろう。これらの楽器の再現を積極的に推進し、アイヌの音文化の継承と普及に

資する事業を展開していくことが望ましいと考える。

また、「伝承」「研究」「普及」という文化資源活用のサイクルの観点からは、民族共生象徴空間全体の管轄の壁を越えた連携が求められる。今後も公園とのさらなる連携と教育プログラムの充実を図っていきたい。

### 【謝辞】

イベントの実施、本稿の執筆にあたり、ご協力いただいたすべての方に御礼申し上げます。

イベントの実施にあたって、八幡巴絵氏、大江克己氏にご協力いただきました。イベント中の蝦夷漫画の画像利用に際しましては松浦武四郎記念館にご協力を賜りました。ご助力に心より感謝いたします。

また、イベントの様子は栢谷隆男(2025)「ますや先生 世界の笛文化を語る 第6回『アイヌ民族の笛～草らっぱ《チレカレツ》』」「奏でる！ シリーズ 季刊リコーダー 2025 秋号 (Vol.57)」に掲載されました。記して感謝申し上げます。

### 注

- 1) 当楽器の日本語名称については、「草の茎の笛」(北原 2015)のように笛としているものと、「ラッパ草」(福岡 1995: 59)のようにらっぱとしているものの2つがあるが、当楽器がリップリードによって音が出る楽器であるため、らっぱという言葉を用いた方が分かりやすいと考え、本イベントでは「草らっぱ」と表記した。
- 2) 「楽器」の指す定義については『国立アイヌ民族博物館におけるニヅフの音具資料—カリニを中心に』より「1.3 紹介する資料の範囲と方法」のような検討を行った(荒川 2026)。その上で、本稿ではイベントの趣旨や内容に照らして「楽器」という一般的な言葉を用いた方が分かりやすさにつながると判断したため、イベントの広報や解説においては「楽器」で統一した。
- 3) 低温処理も選択肢としてあったが、ヨブスマソウの長さが当館の冷蔵庫の大きさを超えるため除外した。
- 4) 三菱ガス化学トレーディングのエスカル<sup>®</sup>ネオを使用。
- 5) 三菱ガス化学トレーディングのRP剤 AEタイプを使用。
- 6) 音の風景のこと。R. マリー・シェファーが提唱した概念であり、彼はランドスケープ(風景)と同じようにサウンドスケープがあると指摘した。

### 参考文献

- 荒川のみ  
2026「国立アイヌ民族博物館におけるニヅフの音具資料—カリニを中心に」『国立アイヌ民族博物館研究紀要 第4号 2025』。
- 内田武志・宮本常一  
1971『菅江真澄全集 第二巻』東京：未来社。
- 太田太郎  
1951「アイヌの気鳴楽器」『東洋音楽研究』9: 60。

北原次郎太

2015『《シンリウレシバ(祖先の暮らし)》第5回 北方の楽器たち(2)  
『月刊シロロ7月号』  
<https://ainugo.nam.go.jp/siror/monthly/201507.html#01> (2025年10月  
18日閲覧)。

佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹

1995『北海道山菜図鑑』札幌：亜璃西社。

更科源蔵

1983『アイヌの童戯 更科源蔵アイヌ関係著作集Ⅷ』札幌：みやま書房。

更科源蔵・更科光

2020『コタン生物記I 樹木・雑草篇 新版』東京：青土社。

田邊尚雄

1925「樺太アイヌの音楽と舞踊」『國學院雑誌』31(1)(365):23。

1926「アイヌ人の音楽と舞踊」『日本音楽の研究』東京：京文社。

1927「樺太土人の音楽」『島国の唄と踊』東京：磯部甲陽堂。

千葉伸彦

2012「The reed pipe of the Ainu. アイヌの草笛(草ラッパ)  
チレクテクッタラ」『YouTube』

<https://www.youtube.com/watch?v=d-rKgAb8GKo> (2025年12月24日  
閲覧)。

2023「ベヘクトゥ pehkutu チレクテクッタラ cirektekuttar アイヌの  
草ラッパ【実験】Ainu Grass Trumpets【Experiment】」『YouTube』

<https://www.youtube.com/watch?v=jBpzbHDeLys> (2025年12月24日  
閲覧)。

2023「雨の日にヨブスマソウを探す Looking for the 'Yobusuma-sou'  
plant on a rainy day.」『YouTube』

<https://www.youtube.com/watch?v=8h18wc5iiD8> (2025年10月18日  
閲覧)。

知里真志保

1976『知里真志保著作集 別巻I』東京：平凡社。

姫田忠義

1978『沙流川アイヌ・子どもの遊び』東京：民族文化映像研究所。

福岡イト子

1995『アイヌ植物誌』東京：草風館。

北海道教育委員会・NHK札幌中央放送局

1964『北方民族の楽器』東京：NHK放送文化財ライブラリー。

三浦定俊・佐野千絵・木川りか

2016『文化財保存環境学第2版』東京：朝倉書店。

R. マリー・シェーファー

2022『新装版 世界の調律 サウンドスケープとはなにか』鳥越けい子、  
小川博司、庄野泰子、田中直子、若尾裕訳、東京：平凡社。